

# 碩心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可  
 神奈川 碩心 会 発 行

13年4月現在 区別 地区別 合計	会員数 125名 184名 26名 335名	13年4月 (345号) 発行者 千葉 岳 関 編集者 白井 岳 麗
----------------------------	------------------------------------	--

## 行事予定

○碩心会総会

日時・6月3日(日) 13時

場所・図書館講座室3F

○総本部夏季吟道講座

7月21日(土)会場 一ツ橋ホール 応用編

〃 22日(日)〃 九段会館 基礎講座

会費 一万円 締切5月18日 霧・杉山

○図書館ホール使用についてお知らせ

来る6月24日(日)碩心会温習会より、図書

館ホール内に於て飲食は出来なくなりまし

た。昼食の場所は講座室の予定です。

## 昇伝認許

(平成13年4月1日付)

初段(十一名)

- 335 島 光子
- 341 山口重男
- 342 石渡みつ枝
- 349 井上 清
- 352 倉林邦子
- 356 鈴木ヨネ子
- 351 田沢潤子
- 355 湯浅和子
- 353 永塚りえ子
- 350 柳川フミ
- 338 伊藤泰子
- 345 佐久本利子
- 344 河原キヌ子
- 337 斎藤裕美
- 339 三堀セツ
- 334 由谷悦子

## 教場変更のお知らせ

○真澄支部 ↓ 図書館分室(講座室3F)  
 ○逗子B支部 ↓ 高齢者センター

- 324 草柳澄泉
- 322 鈴木光泉
- 323 上村炎泉
- 321 荒井喜泉
- 319 藤井酔泉
- 315 岸川芳泉
- 316 角田有泉
- 314 宗 環泉
- 313 森 律泉
- 305 中村瑞山
- 304 熱田英山
- 303 原 佳山
- 296 高橋俊山
- 284 野邑里山
- 283 菊池君山
- 282 大西雄山
- 281 井上哲山
- 258 植村粹風
- 257 林田静風
- 256 黒田慶風
- 255 山本新風
- 347 行谷隆風
- 235 牛尾昭風

## 三井岳隴先生を偲んで

常任理事 村田 岳 瀨

94年の天寿を全うされ、静に逝かれたとの訃報に、色々な思いが浮かんで涙があふれます。

詩吟の道に最初に導いて下さった先生。何時もおだやかに、大会の時も終わった後「この処はこうした方が良かったね」などアドバイスして下さい、丁寧な指導を受けてこれまでにして頂き有難うございました。

体調をくずされ指導をやめられた先生の後を引き受けましたが先生のようにはゆかず、でも皆さん気持ち良く迎えてくださり、新しい会員も三人増えて楽しく稽古をしております。毎月の月報や吟道など一筆箋を添えて、加藤芳岳さんの幸便に託して先生の様子を伺っており、春になったら一度皆さんと訪ねようと思っておりますのに残念でなりません。

ご遺族のご希望で密葬にこのことで最後のお別れにも伺わず……ごめんなさい。

どうぞこれからも私達をやさしく見守ってください。先生さようなら。

## 故三井岳隴先生を偲びて

松和支部 宇都宮 徳 岳

三井先生の訃報に接し、94才の天寿を全うされたと言え私は誠に残念で一杯です。

先生は昭和47年から59年12月までの間、雨の日も風の日も休みなく茅ヶ崎にお出かけ下さい、主に海岸青少年会館で松和支部20数名の会員に熱心にご指導くださいました。私も昭和59年から10年間詩吟の面白味をお教え頂き、漢詩に興味を持たせ、更に漢詩の作詩にまで発展させていただく原点を与えてくださった恩人でありまして忘れることが出来ません。ご高齢のため指導の一線からご引退になり、悠々自適の時代の平成11年10月19日、松和支部長木村岳茅先生と田中宗岳氏と私の三人で、加藤芳岳様のご案内で武山のケアハウス「あっとホーム」にお訪ねしたときは、殊のほかお元気で洒落な服装で私達を迎えてください、旧吟友の話、稽古の思い出話等約二時間快談して大変喜ばれ、一方私達は枯淡な中に生き生きとした先生の生活状態を拝見。これが最後の思い出になった次第で、あの時に伺って良かったと思っております。

日誌に書き留めた拙歌を付記します。

有難度し 以前に吟を 今度また

老いの生き方 教えたいただき

若し吾が 九十二才で 生あらば

三井師の如 あらまほしけれ

## 尽きせぬ敬慕

桜山 荒木 笙 岳

昭和46年4月、熱心なお勧めもあり、初代支部長早瀬さん宅が教場で女性のみ10名で、英明温厚な三井雲岳先生のご指導を仰ぐこととなりました。三井先生は査定、出吟の時いつも暖かく熱心に注意して下さり、不器用な私もお陰様で拙いながら今でも吟を続けております。どのような事態の時も荒立てず、静観していて穏やかに解決してくださいました。今改めて先生のご人徳に敬意を表しております。あれから瞬時に30年近い年を重ね、桜山教場も一時は17人もの賑やかなときを経て今は鈴木岳抄先生にお出でいただき、和やかな八十路坂世代三人の教室になってしまいました。私も三井岳隴先生のように、なお一層健康に留意し、吟と共に充実した豊かな余生を送りたいと思えます。

## 三井岳龍先生を偲んで

逗子B 磯村 岳朋

まず私の中の三井先生は静かで背が高いダンディな方で、詩吟を大変愛していることが身体からにじみ出ていた。中でも新体詩は松井岳洋先生に習ったものを、細かく丁寧に教えて戴いたことは今でも忘れられません。査定の時も「このところがまずかったや、あそこをもう少しこうすれば」とやさしく分かりやすく教えてくれました。

詩吟のことだけでなく人間の生き方、人生の大先輩として教わるが多く、あんな一生を送りたいなと思います。

リタイヤされて静かな海の見えるところに移られて、私達がおじゃましに行くとき快く迎えてくれ、我々の話をにこやかに聞いてくれ、「又来ます。」の答は「ああ……」と気軽に応じてくれました。

残念なのは去年また三井先生に会いに行きましようという話が話で終わってしまったこと。先生に少しましになった吟を聞いて頂けなかったこと。

三井岳龍先生、有り難うございました。

## 高邁なご人格

逗子B 新井 国風

知人の紹介で三井先生の門を叩いた日、先生は袁枚の赤壁をご指導中でした。

あれから既に10年近い歳月が流れたことになりませんが、当時教室には鈴木容岳さん、平山祥岳さんをはじめ、常時10人以上の門下生が集い和やかな中にも爽やかな緊張感が漂っていたように思います。

こちらの品性を見透かされそうな、つまらぬ俗話など切りだせぬ品格と威厳を感じる一方、刻まれた皺をくずした微笑みや、暖か味のあるお人柄が多くの人に敬われ、慕われたものと推測するのです。

ご指導はどちらかと言えば表現力に力点がおかれ、漢詩に込められた豊かさや詩情にいか近づけるか、また時折、詩の背景や歴史感などにも触れられ私は次第に漢詩の世界に没入してゆきました。

吟道の学びを三井先生のもことで過ごせたことに大きな意義を感じます。

先生から沢山のテープをいただきました。その中にはご自身のお声を収録したのも多

く、今は私にとり貴重な遺品となりました。

## 散歩と詩吟

東伏見支部 寺岡 栄山

私と詩吟との出会いから6年の歳月が経ちました。

生来音痴の私が沼田先生のご指導のもと、また先達兄姉及び同、後期入門諸氏の協力と励ましをいただき、昨年10月六段の許証を授かることができました。

バブル崩壊後未だに続く政治、経済が大きく変動している現在、自然を謳いまた人生の糧ともなる漢詩の一字一句は私にとり一時の憩いとなっております。

私は20年来早朝の散歩を日課としており、四季折々に葉山の自然と、朝日に映え日毎に変わる富士の雄姿にふれることは、心身共にその日の活力の源となっております。

当初、愛犬と共に歩いていたのが彼女亡きあとの寂しい時間を癒してくれたのが詩吟です。小声で口を大きく開け閉めし、今まで習った詩吟を一通り終える頃が約30分のコースになります。これからも更に散歩の域を広げ詩吟との絆を深めてゆきたいと思っています。

## 春季審査を受審して

吟秀支部 野 邑 里 山

紅白の梅花はその気品を漂わせ、桜花もその蕾を誇らしげに膨らませはじめた3月20日 逗子図書館ホールにて春季審査会が行なわれました。横須賀第二地区長加藤岳心先生をお迎えして、初段位より準師範まで総勢41名、日頃のご指導を胸に皆力一杯吟じました。私も六段を受審させていただき、高まる緊張の中、落ち着かなければとただそれだけを考えていたようにも思います。

日頃の成果を余すところなく発揮されておられる皆様様の吟詠を拝聴し、審査にあられた先生方の講評をお聞きするにつけ、自分に足りないものは『一つ…二つ…』と自己反省の日でもありました。今回の審査会を機に、かすかな春の足音のようにすこしづつでも着実にその芽をのばすことが出来たらと、気持ちも新たに精進してゆく所存です。吟詠という一つの目標に向かって共に歩み教えを乞う碩心会の皆様方が暖かく、身近に感じられましたのも嬉しくありがたく、帰路の足取りは春風に乗って軽く爽やかでした。

## 昇段審査を受けて

逗子B 島 光 子

3月20日、麗らかな春の陽射しの中会場へ向かった。今回で二度目の審査、さりげなくと自分に言い聞かせながら過ごしてきたのに前夜はやはり眠れませんでした。

詩吟に巡り会ってちょうど一年、教室で村田岳瀨先生の朗詠を聞いて驚嘆し、その素晴らしさに魅入られてしまいました。

ベテランの先輩達の中で、不安で自信もなく、しんどかったが楽しかった。

審査当日、一番の指名。ドキドキする間もなく壇上で吟じて、一瞬心地よさを味わっている自分に驚きました。終わった途端、数日間の緊張のため頭痛と吐き気、脱力感に襲われてしまいました。

総評で「安定した姿勢で力を抜き、作者の気持ち伝える」。私の肩は今ガチガチに凝っています。何時になったら力が抜けるのでしょうか。

詩吟の味わい深さや、おもしろさを知った今、やるしかないと思っております。

## 俳句

悠吟支部 三 壁 照 岳

早春の深き谷より水の音

小綬鶏の鳴く島波のひた走る

肩軽くなりしこの頃シャボン玉

## 入会

364 山王 巨 逗子市池子二一十九一〇四五

(若葉) 〇四六八七一一七七〇三

365 大場嘉江 葉山町堀内一九六三一一七

(只、堀内) 〇四六八七五一一三七九三

366 広瀬優作 葉山町上山口一四五四一十一

(梨、栗山) 〇四六八七七八一六二七〇

367 松木根子 逗子市桜山三一四一四

(悠吟) 〇四六八七三七七八〇九

## 退会

6 三井岳確(死去、逗子A)

154 小峰悠風(死去、滝の坂) 追贈により悠岳

172 今村寿風(若葉) 186 波田礼風(若葉)

327 白砂照志(堀内B) 354 増田 豊(逗子A)

## 編集後記

野山は若緑に萌える頃となりました。今回昇段された方々、おめでとうございます。受審の際は緊張するものですが、それも健康上ではプラスになるそうです。健康で健吟を。